

## 第18回まちの駅全国大会

# まちの駅全国フォーラム in 富山

【日時】2015年9月11日（金）～12日（土） 【会場】富山国際会議場

【主催】全国まちの駅連絡協議会 【共催】富山県まちの駅連絡協議会

【主管】まちの駅全国フォーラム in 富山実行委員会（事務局） NPO 法人富山観光創造会議

【後援】総務省、観光庁、富山県、富山市、高岡市、黒部市、南砺市、富山・高岡・黒部商工会議所、南砺市商工会、健康の駅推進機構

### 開催趣旨・概要

「まちの駅」は“まちの案内所”“地域の茶飲み場”として、既存の施設・空間（公共施設・民間商店等）を自発的に開放する活動で、平成10年からスタートしました。各地の「まちの駅」では、“郷土愛”をもった駅長・駅員が、地域の人や来訪者を“もてなしの心”で迎えるとともに、地域の魅力を高めていこうという動きとともに、全国各地でまちの駅同士の交流・連携も進められています。

全国フォーラムは、そうした全国各地のまちの駅仲間が一堂に介して、それぞれの取り組みを紹介しあい、課題を一緒に考える場として、毎年開催しているものです。

今回は、北陸新幹線の開通によって、首都圏との距離が一気に縮まった富山で開催しました。先進的なまちの駅の実践例に学びながら、参加者同士の自由な意見交換によって、自らの活動を見直すことを目指したプログラムとし、地元及び全国から約150名が参加して、盛大に開催することができました。

- 1日目 9月11日（金）フォーラム  
12:50～13:20 全国まちの駅連絡協議会 総会  
13:30～17:45 まちの駅全国フォーラム  
第1部 まちの駅自慢コンテスト&グループワーク  
全国まちの駅物産市  
&赤ちゃんの駅ロゴマーク投票  
第2部 富山・高岡・黒部のまちの駅から  
プレゼンテーション  
第3部 まちの駅自慢コンテスト結果発表！

18:30～21:00 全体交流会

- 2日目 9月12日（土）エクスカージョン  
\*現地集合現地解散  
富山市 9:00～13:00  
高岡市 9:00～13:30  
黒部市 9:00～14:00

### 開会 ～鉄軌道王国とやまへようこそ！

※敬称略

#### 開会宣言 池田安隆（まちの駅全国フォーラム in 富山実行委員長）



皆さま、こんにちは。北は東北から南は沖縄まで、ようこそ富山にお越しいただきました。心より歓迎申し上げます。昨年、本庄からバトンを引き継いで準備をしてきました。

天候が気になっておりましたが、台風の影響で鹿沼のメンバーが欠席となりました。残念ではありますが、被災された方には心よりお見舞い申し上げます。とはいえ、これほどの多くの方に来ていただいて、嬉しく思います。無駄足にならぬよう、有意義なフォーラムを皆さまと築き上げていきたいと思っております。

それでは、只今より開会といたします。

#### 会長挨拶 久住時男（全国まちの駅連絡協議会会長・見附市長）



こんにちは。まちの駅を通じて、全国各地から地域を愛して活動されている方に集まっていただき、とても嬉しく思います。

今年の3月末時点で、160地域に1585の「まちの駅」があります。昨年一年間で、新規に79駅の仲間ができました。まだまだ発展途上だという証しでもあり、今後の可能性を感じております。総会でも2020年までに3000駅を目指すことが確認されたところです。

2週間前の「まちの駅九州・沖縄会議 in ふくおか」では、「地方創生とまちの駅」というテーマで講演させていただきました。伝えたかったのは、その地域に住んでいる人達が「自らの地域のことが好きでたまらない」「これ程いい場所はない」と思って暮らしていることの重要性です。人は、地域に誇りや愛情を持って暮らしている人の顔を見



に来ます。郷土を愛する気持ちがまちの駅の原点。「我が地域にはこんなに素敵な笑顔がある」というメッセージを、まちの駅から発信しましょう。

27年度の活動計画の中に、「まちの駅の差別化」や「プレミアムまちの駅」というキーワードが出されました。この地域には「まちの駅」が必要だという認識を持たせるにはどうすれば良いでしょうか。原点は「トイレ」です。先ごろ、国が「日本トイレ大賞」を実施しました。見附市も応募し、「パティオにいがた」のトイレも受賞しました。

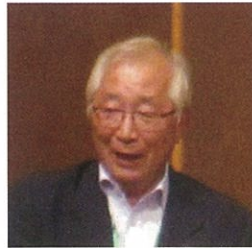
「パティオにいがた」は「道の駅」ですが、「まちの駅」でもあります。施設の中の一番使いやすい場所にトイレを作りました。トイレの重要性を訴えていきたいと思えます。

もう一つは「子育てしやすいまちづくり」。母親が授乳やおむつ交換の場所に困らないまちは住みやすい。まちのいたるところに「赤ちゃんの駅」ができるといいのではないかと。フォーラムの中で、皆さんでロゴマークを選んでいただき、そのロゴマークを利用して、子育てしやすくなる「まちの駅」活動を進めていただきたい。

全国「道の駅」連絡会の本田敏秋会長から、前地域交流センター代表の田中栄治さんへお礼の手紙が届きました。「道の駅」がここまで発展してまいりましたのも、貴殿をはじめ「道の駅」の制度創設当時に携わられた皆様方のご尽力の賜物であり、改めて御礼申し上げる次第です」と書かれています。「道の駅」の思想は、本来は「まちの駅」が本流であり、その一つを「道の駅」が推進しているということ。自信を持っていただき、「道の駅」と「まちの駅」の連携を進めていただきたい。

各地の皆さんと連携し、学び合い、楽しみ合える2日間にしていただきたいと思えます。よろしくお願ひします。

## 開会挨拶 伏江 努（富山県まちの駅連絡協議会会長）



たくさんの方にご参加いただき、厚く御礼申し上げます。

「まちの駅」との出会い、田中栄治さんとの出会いに遡ります。20年前、富山県商工会議所青年部の役員をしていた時に、ある方の代理として建設省の会議に出席しました。四全総の時代でした。田中さんから「行政には垣根があるが、まちの駅には垣根がない。まちの駅が地域を元気にし、まちの駅のネットワークが日本を元気にする」と聞かされ、感化されました。

そして、15年前に民間まちの駅の第1号を作りました。おかげ様で、富山、高岡、黒部ほか100箇所のまちの駅が地域に根ざしてきました。そこに、3月14日の北陸新幹線開通が決まったことで、全国大会誘致の機運が高まりました。それとともに「富山県まちの駅連絡協議会」が立ち上がりました。

私もまちの駅全国フォーラムには何度も参加しています。長岡市の全国フォーラムでは、閉店したデパートを市が買い取ってまちの駅にしており、感銘しました。フォーラムではお互いに切磋琢磨して、荷物にならない「おみやげ」をたくさん持って帰ってください。帰ったら、いいことはすぐに真似してください。そして地域を元気にしてください。いろいろな刺激を受けて、2日間を楽しんで帰っていただきたい。

池田実行委員長を始め、スタッフの皆さんに御礼を申し上げて歓迎の挨拶とします。

池田実行委員長を始め、スタッフの皆さんに御礼を申し上げて歓迎の挨拶とします。

池田実行委員長を始め、スタッフの皆さんに御礼を申し上げて歓迎の挨拶とします。

### 全国まちの駅連絡協議会 総会報告

I.平成26年度事業報告及び決算報告・・・承認

II.平成27年度事業計画及び収支計画・・・承認

III.平成27年度役員体制・・・副会長の藤田眞一氏の辞任により、新たに稲生孝之氏が副会長に選出された。

#### VI.その他報告

- ①栃木県鹿沼市では、まちの駅ネットワーク設立10周年目にして、市内のまちの駅が100駅になった。(台風水害によって不参加になった鹿沼市メンバーの代わりに、吉田恵子氏(まちの駅ネットワークとちぎ)が報告)
- ②2015年度「ウォーク21(歩くことを主体にしたまちづくりを考える国際会議)」が10月21日にウィーンで開催され、そこで「地方再生におけるまちの駅」と題して、古池弘隆教授と吉田恵子氏がスピーチを行う。
- ③今年で30周年を迎える日本トイレ協会では、「2020年のその先へ!」と題して、11月14日に東洋大学で第31回全国トイレシンポジウムを開催する。日本のトイレ文化を伝えて、トイレからのおもてなしを考える。全国まちの駅連絡協議会は共催団体として参画、分科会で鹿沼の福田義一氏が「まちの駅とトイレ」を報告する。



## 1 東出雲町まちの駅女寅

報告者：井上光子（まちの駅女寅 駅長）

島根県東出雲町時代に、まちの情報案内所として「まちの駅」を設置。合併後は、松江市から指定管理を受託している。女寅(めとら)は地元出身の歌舞伎役者の名前。地域のニーズにあわせて日々進化する駅を目指す。

- まちの駅ギャラリーや箱ショップ（手作り雑貨などの委託販売）、手作り野菜や漬物・パン販売など、地域の方々がつくられた自慢の逸品を紹介・販売している。「あったらいいな」を大切にしている。
- オリジナル商品が欲しいと考え、地域のおせんべい屋さんで7種類のまちの駅せんべいをつくってもらい、まちの駅ラベルを貼って100円で販売開始した。
- 合併で広域から観光客が来るようになった。松江市が駅前に看板を設置してくれた。「地域に必要なモノ・コトはなんだろう？」という視点を大事に、来た時よりも元気になって帰ってもらえるようにしていきたい。
- 松江市と合併し、行政主導でネットワークを作ったが、まちの駅同士のネットワークが弱い点が課題である。

## 2 まちの駅ネットワークとうがね

報告者：宮原政志（まちなみの駅 駅長）

千葉県東金市で、2011年から発足したネットワーク。キーワードは「遊び心」。様々な施設や商店、学校など40駅が連携して、全国のまちの駅を次々に視察している。遊びながら世代を超えて、地域を盛り立てたい。

- いろいろな団体に横串を指すことを目指して、実験事業としてスタート、2年目から認識が変化してきた。各地のまちの駅を訪問しては、教を乞うている。
- 年間1万円の年会費で活動している。お金がないので、みんなから景品を集めたら、いろいろと集まった。お互いに行ったり来たりすることから始まる。何かあったら、すぐに仲間の顔が浮かぶ関係づくりが「まちの駅力」。「まちの駅新聞」を発行し、活動を広くPRしている。
- 「八鶴湖動植物図鑑プロジェクト」では、八鶴湖の動植物について、地域の高校の先生と一緒に観察会を行っている。時間をかけて地域の動植物図鑑を作っている。
- みのりの郷東金の「マルチビジョンをなんとかし隊！」は、直売所に設置されている大きなマルチビジョンに流す動画を募集するプロジェクト。「撮って見せてシェアする地元♡愛」というキャッチコピーで実施している。

## 3 富士市まちの駅ネットワーク

報告者：渡辺栄一（まちの駅 憩いの茶の間 駅長）

静岡県富士市で、行政主導で2004年に設立した。熟さぬうちに全国大会を誘致。駅のネーミングにも創意工夫。現在64駅が所属し、公設公営から民営にゆるやかに移行。程よい緩さと5つの心構えが長続きの秘訣だ。

- 「この指とまれ」で気のあった人同士がイベントを実施。蓮祭り、観音様のお祭りなど、人気のイベントも盛りだくさんである。
- イベントも、目的に合わせて進化させている。まちの駅コンサートを10年間行ってきた。駅の認知度も上がり当初の目的を果たしたと感じ、単体の駅だけでなく、他の駅とも連携できる新企画を立ち上げた。
- まちの駅の硬券切符を作成、1枚100円で販売している。「地域貢献切符」と呼んでいる。買い集める方が増えて、密かなブームになりつつある。
- まちの駅では実際に会うことが大事。「百聞は一見に如かず」というが、さらに「百見は一行に如かず」である。まちの駅で馬鹿話をすることで、人は元気になる。

## 4 健康の駅ながおか

報告者：長澤剛（健康の駅ながおか）

新潟県長岡市の健康の駅。元気なお年寄りもウェルカム！寝たきり予防で「地域で暮らす」を応援する地域の拠点。介護予防からフルタイムのサービスまで介護に関する全てのニーズに対応する「テーマ・ステーション」

- 健康の駅推進機構が認定したテーマ・ステーションであり、医師や看護師など、健康に関するしっかりと技術や知識を持ったプロがいる、健康をテーマにした「健康の駅」。信濃川の近くで、長岡花火大会も間近に見られる。
- 健康増進、介護予防のために、中高年向けフィットネスクラブを実施。デイサービス利用者だけでなく一般利用も可能で、健康増進活動メニューや教室も充実。
- 健康の駅内の「高齢者センターしなの」には110畳の交流スペースがあり、65歳以上は入館料200円でジェットバスや歩行湯など4種類のお風呂や休憩、カラオケや囲碁・将棋といった娯楽も楽しめる。
- 朝からお友達同士で来て、総菜や漬物などを持ち寄ってご飯を食べる光景も見られる。生け花や踊り、書道といったサークル活動もさかんで、仲間づくりもできる地域の公民館のような役割を果たしている。



まちの駅自慢コンテストは、頑張るまちの駅の方の活動発表を聞き、「未来につながる力」「笑顔広がる力」「ネットワーク力」「パクリたい力」「プレゼン力」「こつこつ力」の6つの切り口で、グループごとに相談して、評価・採点を行いました。また、評価の言葉を「一言コメント」で記述してもらい、その中から印象的なキーワードを抽出して、それぞれの賞を決めました。

#### 1. 東出雲町まちの駅女寅

一つ一つコツコツやり続ける力がすごい。地域の潜在力を発掘し、人のニーズに答えようとしている。「あったらいいな」をパクリたいで賞

#### 2. まちの駅ネットワークとうがね

抜群の行動力と、地域が一体となって取り組みを実行している点が素晴らしい。まちの駅新聞を定期的に発行しているのを真似したいで賞

#### 3. 富士市まちの駅ネットワーク

駅のネーミングのつけ方が面白い。“ふれあい”と“おもてなし”をコンセプトに、無理をせず、楽しく人の輪・活動の輪を広げているで賞

#### 4. 健康の駅ながおか

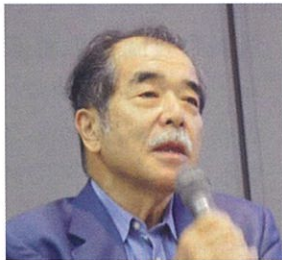
高齢社会に向けて、健康をテーマに新しい交流を実践、ハードを生かしたコミュニティを形成。健康まちづくりで地域貢献をしているで賞



### 総括コメント 宮口侗迪（早稲田大学教授）

専門は地理学。日本人は歴史は好きだが、地理は流行らない。それは日本中があまりにも似かよっているからだ。

「まち」と「むら」にはそれぞれに価値がある。日本の農村は世界に冠たる農業生産力を誇る。暑い時期にも水があって、農産物が採れるところは世界中にあまりない。「まち」では違う人が入り混じって、それがぎっしりと住んでいる。「まち」の価値は、違う人が出会い、触れ合い、そこに「やりとり」が生まれることだ。「むら」の人は話をしなくても生きていける。日本人は工場で黙々と働くことは得意であって、それが経済成長も支えてきた。お店でぺちやくちゃ喋ることは苦手だ。お喋り好きのイタリアは小さい店が残っている。



ヨーロッパには広場がある。広場で人が出会い、触れ合い、会話が生まれる。日本の市街地には広場はない。郊外に大型店舗が出来ると、中心市街地には人の集まる魅力がなくなってしまった。まちの駅ネットワークは広場の役割を果たすのではないかと。スペースはないが、まちの駅の人のつながりが網の目を作っている。

日本が海外から評価されることのほとんどは、東京では

なく地方で生まれたものだ。

「まちの駅女寅」はネットワークが活かされていないが、単体でもコツコツと地道な活動が評価された。地域内ではなく地域を超えた付き合いを作っている。

東金市は、地元にも「まちの駅」をたくさん作ろうと、勉強会や視察からはじめて、古い町内会を超えたつながりが生まれており、まちの底力をアップさせている。

富士市の発表で「百聞は一見に如かず、百見は一行に如かず」と言われた。体制不十分でありながら「やっちなえ」的手法によって全国大会を誘致した事が成果だ。

「健康の駅ながおか」は健康・福祉の施設であるが、開かれた運営をすることは素晴らしい。

ちょっと気になったのは、「仲間同士」で来て欲しいと言っていること。「駅」とは仲間を超えた付き合いが生まれる場所である。知らない人と仲良くなって、新たな付き合いが始まる。

日本人は今でも社交性が低い。だから若者もスマホばかり見ている。「まちの駅」関係者は、語り合い声を掛け合って、遠くの方同士が仲間になって訪ねても行く、珍しい人々だ。まちの駅が、日本人に足りないものを補っていくことを期待して、怪しげな総括としたい。



### ✂ 富山からの報告 岡崎亜都子 (NPO 法人富山観光創造会議)

夏休みの自由研究に特化したものを紹介。「まちの駅で夏休みの自由研究をやっちゃおう」を6年前から実施している。小学校の総合学習の授業がある。小学生が、商店街のまちの駅に行って、社長や店長に自由に聞き取りをして、それをまとめて自由研究に。「やめさせたい社員はいますか？」など、子どもならではの大胆な質問も。何回も通っている中で、店に対する愛情が芽生えている。家族や友達と買い物に来るようになっていく。



すべての職種で可能。手順は、①自由研究の研究材料を提供する駅を決める。②富山市内の全ての小学校にチラシを配布。③決められた日に来店してもらいお店の説明をする。④お店で自由研究を完成させる。または、自宅へ持ち帰り自由研究を完成させる。次の企画としては、「リアル脱出ゲームをやっちゃおう in まちの駅」を企画中。

### ✂ 高岡からの報告 竹中靖治 (まちの駅ネットワーク高岡)

まちの駅ネットワーク高岡は平成17年10月に活動を開始し、現在は27駅。オリジナルのノボリが目印。

高岡市は「日本遺産」の認定を受けている。国宝瑞龍寺は、加賀藩2代藩主前田利長公の菩提寺。瑞龍寺周辺には10のまちの駅がある。日本三大仏の「高岡大仏」は、与謝野晶子が「鎌倉大仏より美男」と評した。周辺に3つのまちの駅がある。高岡古城公園には水濠や、石垣は現存。周辺地区に2つのまちの駅がある。「山町筋」は伝統的建造物群保存地区。土蔵造りの町並みの中に、3つのまちの駅がある。同じく伝統的建造物群保存地区の「金屋町」は高岡漆物発祥の地。千本格子の町並みと石畳が美しい。7つのまちの駅がある。七不思議のあるお寺として親しまれて「勝興寺」周辺には、1つのまちの駅がある。



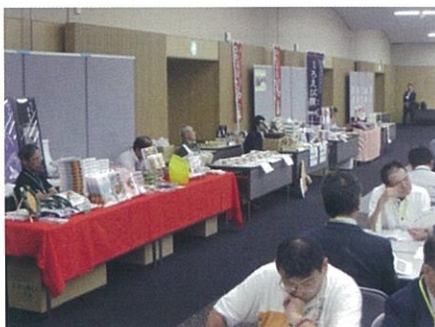
### ✂ 黒部からの報告 岩瀬新吾 (まちの駅ネットワーク黒部)

「元気で住みやすいまちにしたい」「マチヂカラ (地域力) によるまちづくりをしたい」という思いで、黒部商工会議所「げんき委員会」が商店街や各種団体に呼び掛け、取り組みがスタートした。平成21年12月にまちの駅ネットワークを設立、23駅でスタートした。現在は46駅。目印としての手作り看板、パンフレットラック、知ってもらうための「得得パスポート」やマップを作製して、スタンプラリーを実施したり、まちナビカードを作製した。

コミュニケーションを図るために、まちの駅で『体験事業』を実施した。「ボジョレーヌーボーを楽しむ会」や「パンク修理を学ぶ」など。地域のよさを知るために「桜とまちの駅巡り」、「清水とまちの駅巡り」を実施。「黒部名水ロードレース」と連携して、開催前日に来訪者へ「まちの駅と地場産品をPR」した。

## まちの駅物産市 ～地元および各地のまちの駅から、逸品が勢揃い

フォーラム会場内に「まちの駅物産市」を設置しました。地元富山県内の物産のほか、各地のまちの駅からもさまざまな特産品を持ち寄っての物産市。コンテストの採点集計の時間を利用して、物産&情報交流を図りました。





## 全体交流会

高岡市長、黒部市長、富山市副市長、富山市商工会議所会頭ほかの臨席を賜り、交流会は盛大に開催されました。売薬チンドンが歓迎の演奏でお出迎え、サウンドマシンのパフォーマンスはパワー全開、会場が熱気に包まれました。



池田実行委員長の挨拶



売薬チンドンによるウェルカム



サウンドマシンの演奏



各地のまちの駅メンバー紹介



富山のまちの駅メンバーも壇上に



拍手による赤ちゃんの駅ロゴマークの決戦

## エクスカージョン ～富山・高岡・黒部が競演！ そのすべてが富山の誇りです～

富山市は、環境モデル都市の選定を受け、コンパクトシティを目指した都市計画を進めています。環境未来都市にも選定された「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」とまちの駅廻りを楽しみました。

### 富山市：コンパクトなまちづくりを体感しながら、薬都とやまのまちの駅めぐり

富山国際会議場 ⇒ 城址公園 ⇒ セントラム乗車 ⇒ まちの駅巡り(池田屋安兵衛商店・まちの駅とよた・まちの駅月世界・まちの駅島川あめ店) ⇒ 富山市立ガラス美術館 ⇒ グランドプラザ ⇒ 昼食「写楽」



富山城の石垣



池田屋安兵衛商店で丸薬づくり体験



まちの駅とよた



まちの駅月世界



まちの駅島川あめ店



ガラス美術館



全天候型広場グランドプラザ



寿司屋「写楽」の前にて



高岡市は、日本遺産にも指定された“歴史”と“文化”と“ものづくり”のまちであり、街並みが昔を今に伝えています。加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまちを散策しながら、伝統の人・技・心を体感してもらいました。

## 高岡市：日本遺産高岡、国宝瑞龍寺や高岡大仏などの観光名所とまちの駅巡り

あいの風とやま鉄道高岡駅 ⇒ 国宝瑞龍寺 & まちの駅たかおか(全国初の民間まちの駅) ⇒ 高岡大仏 & まちの駅 ⇒ 山町筋(土蔵造りの町並み) & まちの駅 ⇒ 金屋町(千本格子の家並み) & まちの駅 ⇒ 屋食「あんしんごはん」



国宝瑞龍寺



まちの駅たかおか



高岡大仏の前にて



ごりやくの駅 坂下小路



山町筋(重伝建地区)



蔵の駅 山町茶屋



金屋町(重伝建地区)



まちの駅・鉄瓶屋

黒部市は、豊かな水資源や安定した電力を基盤とした日本海側屈指のモノづくりのまちで知られています。世界の YKK もあれば、清らかな水と懐かしい風景、それらに育まれた美味しい食に出会えます。「新くろべ発見」と題して、YKK 見学とものづくり体験、豊かな名水に育まれた“食”を満喫してもらいました。

## 黒部市：生地名水の里を中心にまちの駅巡り、地元代表企業 YKK 視察など

あいの風とやま鉄道黒部駅 ⇒ YKK センターパーク ⇒ まちの駅四十物昆布(あいものこんぶ) ⇒ まちの駅生地蒲鉾 ⇒ 清水庵の清水(しょうずと読みます) ⇒ 屋食「まちの駅よりみち」 ⇒ まちの駅皇国晴酒造 ⇒ 魚の駅生地



YKK センターパーク



昆布加工見学



細工蒲鉾づくりを体験



船を通すための転回橋



こんこんと湧く清水庵の清水



屋食「よりみち」



皇国晴酒造見学



魚の駅生地



全国フォーラムの様子は、地元新聞紙に掲載されました。



他県のまちの駅の取り組みを準備する参加者

### 「まちの駅」活性化策探る

「まちの駅」全国フォーラムが11日、富山県富山市の富山国際会議場で始まり、全国の関係者約150人がまちの駅のさらなる活性化や認知度向上の方法などを考えた。12日まで、[webun]に写真3枚

まちの駅は、観光情報発信し、交流スペースを備えるまちづくりの拠点。フォーラムは、全国のまちの駅運営者が集まって毎年開いており、今回は北陸新幹線の開通で首都圏との距離が縮まった富山県で初めて開催された。

全国まちの駅連絡協議会の久住時男会長が「地域のみに、まちの駅があっても良かったら思ってもらえる工夫が必要。各地の皆さんと連携して考えたい」とあいさつ。「まちの駅自慢コンテスト」では、各地のまちの駅運営者がそれぞれの取り組みを発表し、参加者が改善点を考えた。

県内には富山、黒部、高岡の3市の商店を中心約100カ所のまちの駅がある。この日は、開催の拠点、フォーラムは、全国のまちの駅運営者が集まって毎年開いており、今回は北陸新幹線の開通で首都圏との距離が縮まった富山県で初めて開催された。

全国まちの駅連絡協議会の久住時男会長が「地域のみに、まちの駅があっても良かったら思ってもらえる工夫が必要。各地の皆さんと連携して考えたい」とあいさつ。「まちの駅自慢コンテスト」では、各地のまちの駅運営者がそれぞれの取り組みを発表し、参加者が改善点を考えた。

県内には富山、黒部、高岡の3市の商店を中心約100カ所のまちの駅がある。この日は、開催

## 商店は活性化拠点 まちの駅



物産展のコーナーに並べられた富山の特産品。富山市大町町の山田国際会議場で

### 全国フォーラムIN富山開幕

飲食店や商店など地域活性化の拠点「まちの駅」として住民や観光客との交流の場にして、全国大会「まちの駅全国フォーラムIN富山」(全国まちの駅連絡協議会主催)が11日、富山国際会議場(富山市大町)で始まった。1日間の日程で、富山市の二十一人団体を含め東北から沖縄まで約百五十団体の代表が参加。初日は情報交換会や北信越の物産展があった。(岡本真穂)

「まちの駅」の設置町や池田屋兵衛商店(同市黒部町)と、地元企業の視察などがあつた。案内所や交流の場といった地元で長く愛されて

「まちの駅」の設置町や池田屋兵衛商店(同市黒部町)と、地元企業の視察などがあつた。案内所や交流の場といった地元で長く愛されて

大会の開催あいさつで、連絡協会の久住時男会長は「地方自治体の魅力向上と活性化のために、住民が地元を好きという思いをもち、富山県内でまちの駅がその拠点になれば」と期待を示した。

十二日は富山、高岡のまちの駅巡りや、両市のまちの駅巡りや、地元企業の視察などがあつた。

### 赤ちゃんの駅ロゴマークの投票

「赤ちゃんの駅」とは、まちの中のお店や公共施設など人が集まる施設において、だれでも授乳とオムツ替えをすることができる環境を整え、子育て中のお母さんが、親子で安心してお出かけできるまちづくりのために、地域が一体となって取り組むものです。見附市がロゴマークを募集し、それを全国の「まちの駅」でも共用しようということになり、全国フォーラムの会場で参加者全員が投票し、僅差のために決まらず、交流会会場で決選の末、拍手の多かった右のマークが選出されました。「赤ちゃんの駅」の発案は東京都板橋区ですが、もちろん「まちの駅」がヒントになって、区の事業としてスタートしたものです。「みつけ」の文字を消したマークを使う予定ですので、ぜひ多くの方にご参加いただけるよう希望いたします。



### 編集後記

平成27年度、第18回まちの駅全国フォーラムin富山の報告書をお届けいたします。今回のプログラムでは、第10回の上野大会以来の「活動コンテスト」を取り入れました。上野大会では専門家や学識者に審査委員をお願いしましたが、今回はグループワークとして、参加者全員で審査する方式を試行しました。事後の反省点・改善点も少なくありませんが、早速「まちの駅ネットワークみつけ」がメンバー内の自主研修として実施したと聞いて、嬉しく思っています。本報告書で、富山の熱気の様子が少しでも伝われば幸いです。